

わかば

2018. 6. 2
第18-08号
文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

重点目標 一人一人が輝く教育 ～期待登校・満足下校～

アメリカに感謝、そして、先生方、児童生徒、保護者等に感謝の二ヵ月

1988年から3年間、インドのボンベイ（現ムンバイ）日本人学校に勤務しました。日本国内とは大きく異なり、衣食住に恵まれていたとは言えない日々の中、ある日、インド生活の不满を職員室で嘆いていた私たち職員に、校長先生が、「先生たち、何かと不便で衛生面も気になるだろうが、私達はインドの人たちのおかげで、こうして毎日食べて生きていけるんです。そのことには感謝しましょう」と、言われました。まさしくその通りだなと思い、心構えが変わったことを覚えています。今では、再度訪れたい国の一つがインドです。

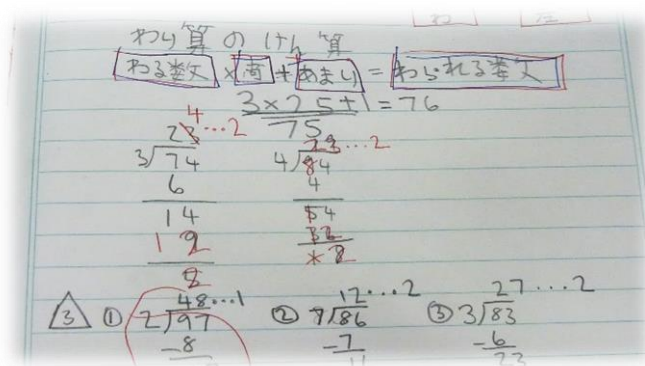
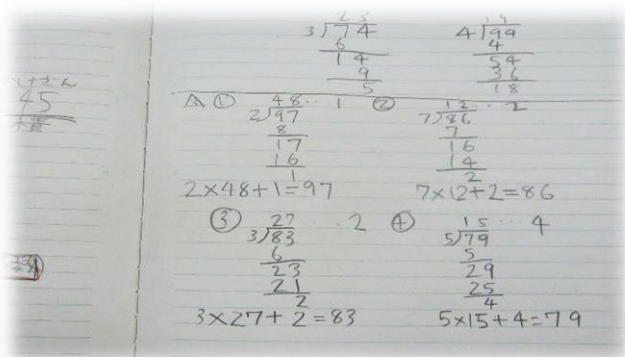


さて、アメリカに来て、二ヵ月が経とうとしています。衣食住の不便もなく、当たり前のように暮らし、国内の子供や孫たちとも気軽に連絡できます。ふとボンベイ時代を思い返し、今こうして不自由なく暮らせるのも、インドと同じように多くのアメリカの人々の見えない関わりのおかげだと、感謝する気持ちを新たにしています。



日本人学校では、学習指導要領が求める全ての内容をこの授業日数で実施することは難しく、エキス分を（重点）一日で進んでいきます。日本人学校の教育活動に向け、家庭での諸準備を済ませ、黙々とエネルギーに指導される先生方、そして、その指導を受ける児童生徒、また学校の教育活動をご理解ご支援いただいている保護者の皆様や領事事務所、商工会、諸団体等に感謝する二ヵ月です。

ノートのとり方は、思考の整理につながります。・・・ノートの良さ(小学部4年)



- 左のノートは、4年生、あまりのあるわり算のひっ算です。ノートの紙面を6等分と考え、はみ出すことなく、重なりもなく、実に見やすいノートの記入です。ひっ算の下には、いわゆる検算がされ、ひっ算の答えがあっているかが直ぐにわかり、実にすっきりとしたいいノートです。
- 右のノートは、どこで間違っただかが分かるように、間違いを消しゴムで消し書き直すのではなく、間違いを残したまま赤ボールペンで書き直し正しくしています。この写真の時には、別の問題をしていましたが、ふとわからなくなったのか、このページを見直して確認をしていました。間違いを生かすノートの良さが実にいいですね。 ※ノートの持ち主からは、わかば掲載の了解を得ています。

さすがに主張する内容が多彩で、発信力がある中学生・・・スピーチ(中学部3年)

中学部3年の学級訪問をすると、生徒一人一人が同級生に向けて、今自分が思っていること、考えていること、感じていることを訴えるスピーチの場面でした。内容が豊かで説得力があり、聞き入ってしまいました。

「いじめ体験を基にした内容」「他州から来た15才の少女が知り合いの近隣の住人に銃を発砲した事件や昨今の高校生発砲事件を背景とした銃規制の内容」「オレゴンコーストのごみ拾い体験を基にしたボランティア活動の内容」等々、国内の生徒とは違った観点や発表力の違いを強く感じました。文章の読み上げでない、自分の言葉で語りかける姿に、発信力を強く感じました。



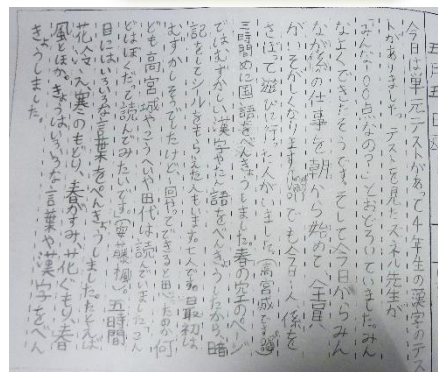
作文力向上と他者理解を図る手立て・・・学級日誌(小学部5年)

5年1組の学級訪問では、ふと黄色の表紙の「5年1組 学級日誌」が目にとまりました。どのようなものかと見ると、その日の学級日誌の当番が書いた、例えば「今日の出来事」「テストのこと」「先生の面白かったこと」などの内容が、しっかりと記入されています。5年1組になってからですので、まだ5、6枚程度ですが、そのうちの一枚に、「校長先生が来て、何枚も写真を撮っていました。」と、私も日誌の素材になっていました。

学級を互いに認識しあうとともに、誰がどのような観点で書いているかが分かり、どのように書こうかと思案したり推敲したりするなど、作文力が高まる一つの手立てではないかと思えます。

学級日誌

5年1組



落ち着きを持って下校へ・・・読み聞かせ (幼稚部)

本に食い入る視線の中で読み聞かせをする吉田先生は大変でしょうが、ここまで集中されるとやりがいも大きいでしょう。山や池などの様子を、絵本を基にお話している場面です。

「山や池、森」などの語彙を増やしたり、働きや池と湖の違いなどを語りかけたりしていました。また、一方では、学びや遊びを通してある面高まっている興奮した気持ちを、下校前に落ち着かせ収束させるねらいがあるものと思えます。

この読み聞かせの場面の前は、ジムでのラジオ体操や楽しい玉入れの練習でしたので、なおさら、ゆったりと落ち着かせることが必要だったものと思えます。



同じ空間が、面白い

右は、力強くドッジボールを楽しむ高校生。左は、玉入れ練習に歓声を上げながら励む園児。同じ時間の同じジムの中で、共に学ぶ、補習授業校ならではの面白い光景です。



児童生徒の作品紹介 V



○まずは、2年生から

今回は、再び小学部の作文や詩を紹介していきます。春を題材にした作品が多いですが、学年が違うと、書きぶりがずいぶんと変わり、作文力の成長を感じます。 校長 信國 寿敏

「二年生」

春がいっぱい

リー ベンジャンミン

おととい、ぼくは日本人学校でたんぽぽを見つけました。フツーとわたげをふきとばしたとき、とてもたのしかったです。



さくら

上中 星來



春休みにおじいちゃんとおばちゃんといっしょにレストランにいきました。車をとめるときに、さくらの木を見つけてきました。とてもきれいだったので、しゃしんをとりました。春のさくらが大すきです。

春がいっぱい

二宮 迅

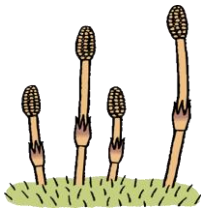
となりのいえの大きなさくらの木に、白い花がたくさん咲きました。今はぜんぶちってしまいました。つぎの春にまた見たいです。



わたしたちにとっては、さくらやたんぽぽは、まさに春のイメージですね。こうちょうせんせいアメリカに来る前の三月の終わりのころ、とうきょうの「ちどりがふちこうえん」に行きました。さくらがまんかいで、たくさんのがいこくの人たちも見に来ていました。

美しいものはだれが見てもきれいですよね。日本人学校にもたんぽぽがたくさんあって、かわいいです。つぎの春に、またさくらやたんぽぽを見ましょう。

○次は、四年生の作文と詩です。



春のうた
〜出会いとわかれ〜

二宮 蓮

春が来た、一年生が入学し、ざい校生は、進級し、六年生はそつぎようし、わかれてしまいが、新たに出会いがあるさ。わかれの数だけ出会いがある。だけどもんな、みんなの中でつながっている。そう、別れは出会いのチャンスなんだ。きつと気が会うやつはいるさ。だけれどいつかわかれの時はくる。だけれどいつかきつと、また会えるさ。わかれの時に、流れるなみだは出会いと友しようのしようなんだ。



春のうた

林 和夏

ぼんっ なつかしいな。
しゆるん まぶしい。
ぼんっ ぼんっ ぼんっ
人間がつくしをとる。
つくしは人間がてきたと思う。
人間はつくしがてきたと思う。
人間は強い。
つくしは弱い。
人間はつくしをぬく。
つくしはだまってごみばこへ。
でも、つくしはまだ死なない。
もう一度、つくしは、またはえる。



春がきた

久保 めい

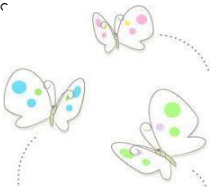
春がきた
冬が終わって あったかい
春がきた
お花がきれいに さいている
春がきた
とりがうれしそうにとんでいる
春がきた
わたしはとても うれしいな



春のうた

桑原 優奈

わたしはちようちよ。
みつがほしい。
あつ花畑だ。
あつ花がある。
食べようかな。
のもうかな。
おなががすいた。
さあ食べよう。
おいしい。おいしい。
もう春だ。





四年生ともなると、繰り返しや擬音、体言どめ、擬人化、呼びかけなどの技法を取り入れることで、イメージ的な余韻やリズムを持たせる工夫をしています。

また、「～○○～」のようなサブテーマをつけるなど、何について書いた作文であるかが、事前に読み手にわかりやすくする工夫をしています。さすが、四年生です。

○最後に、6年生の春をテーマにした「春のいぶき」の作文です。

「六年 春のいぶき」

春をかんじられるもの

佐伯 未優

わたしの一つ目の春を感じられるものは桜です。春になると冬にかれてしまった木がまたきれいに花をさかせます。そして、桜の木の下で花見をする人が多くなります。わたしも日本で春になったら友達と花見をします。わたしの二つ目の春を感じられるものは暖かさです。冬は寒かったのに春になると外に出る時にコートやマフラーを着なくなりません。この二つがわたしに春を感じさせてくれるものです。

春のいぶき

湯浅 紅

私が春を感じられることは二つあります。一つ目は、桜です。暖かくなると、桜のつぼみが開

き、満開になり桜の花びらが落ちてくる時に春を感じます。あと花びらをあつめて上になげるのが好きです。

最後は、太陽のぼる時。十二月の朝、六時半ぐらいは暗く、四月の六時半ぐらいはものすごく明るいから過去しやすくなります。私は、春が一番良い季節だと思います。

春のいぶき

古田島 謙太郎

ぼくが春を感じる物は、桜です。なぜかという、桜はとてもきれいで、すてきな形だからです。風が桜にあたらたら、桜が散ります。桜を見ると、「春がきたな」とかんじます。リリーパッドな形をしていて、うすいピンク色が春を感じます。いっぱいピンクな葉があると、葉が光っています。だから、ぼくが春をかんじる物は桜です。

春のいぶき

芦田 悠太郎

ぼくは、桜が咲くと春を感じます。春になると、毎年、家の裏道にたくさん桜が咲いて桜のトンネルが出来ます。

家のリビングの窓から桜のトンネルが見えて、きれいです。今年はおばあちゃんが日本から遊びに来たので、一緒に桜の木の下で写真を取りました。

桜がちるとピンクのじゆうたんになります。桜は、とてもきれいだと思います。

春のいぶき

ケース 舞里奈

春と言えば、桜。私の近所には桜の木がいっぱいある。学校に行く通り道にピンク色がいっぱいあると、春とわかる。歩いて家に帰る時、小さなピンクの花びらを投げながら帰るのがいつも楽しい。友だちのマルコと歩いて帰りながら落ちてくる花びらをキャッチするのが本当に楽しい。

こうやって、遊びながら歩いて帰っていると、やっと春になったなあ、と毎年思う。毎年春になるのが楽しみだ。



二年生と六年生では、春を感じる「桜」を題材にした作文では、とらえ方が違います。二年生は、直感的な桜の美しさや感じたことを直球勝負で、ずばっとストレートに作文にしています。

一方、六年生ともなると、桜の姿かたち、触れた感覚、光を通した色合いなど、作者が感じた桜の映像が読み手にも共感でき、緩急をつけた作文になっています。

二年生と六年生では、成長段階に伴う生活経験値の違い、感性の伸長、語彙の増加、文章力の向上が作文にあらわれているように思います。

【事務局からの報告とお礼】※寄附継続中

ティッシュボックス 40個ご寄付いただきました。ありがとうございます。

